

令和2年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	多	多
	ハダニ類	多	多
たまねぎ	べと病 (防除情報第10号継続)	多	多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	並

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は2.6%(2.9%)、発生圃場率は18.2%(24.2%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は5.6%(3.8%)、発生圃場率は36.4%(49.6%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率4.2%)。

#### 4. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均 発病果率0.0%、発生圃場率0.8%)。

#### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は2.9%(1.6%)、発生圃場率は18.2%(19.0%)であり、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準 P156～159の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

ウ 하우스外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

#### 7. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は1.6%(0.7%)、発生圃場率は9.1%(16.7%)であり、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス(CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス)を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準 P156～159の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

エ 하우스外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト
-----

#### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は2.0%(0.2%)、発生圃場率は18.2%(21.1%)であり、一部多発圃場が見られた。

#### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃

場率3.1%、過去8か年平均 発病葉率0.4%、発生圃場率17.8%)。

### 3. コナジラミ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.8%)、発生圃場率は18.2%(29.7%)であった。

## いちご

#### 1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(26筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(過去10か年平均 発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

#### 2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(26筆)の結果、発病果率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は11.5%(17.2%)であった。

#### 3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は2.8%(0.5%)、発生圃場率は19.2%(10.6%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準 P214~217の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

#### 4. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(26筆)の結果、寄生株率は11.0%(6.5%)、発生圃場率は53.8%(45.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

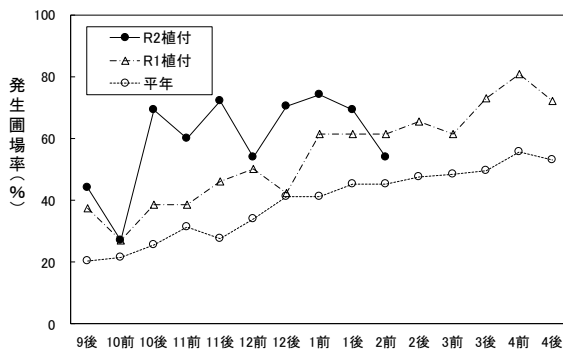


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
平均:H22~R1の平均値(最大・小値除く)

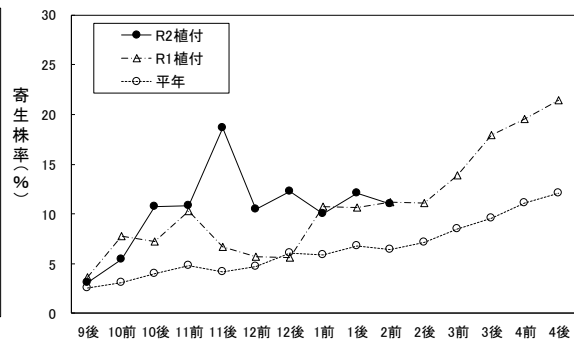


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
平均:H22~R1の平均値(最大・小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- エ 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

たまねぎ

1. ベと病

令和3年2月1日付け令和2年度病害虫発生予察防除情報第10号を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は0.13%（0.02%）、発生圃場率は31.3%（6.3%）であり、一部多発圃場が見られた。

2. 白色疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.7%）。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は6.8%（11.0%）、発生圃場率は43.8%（50.9%）であった。

【参考】

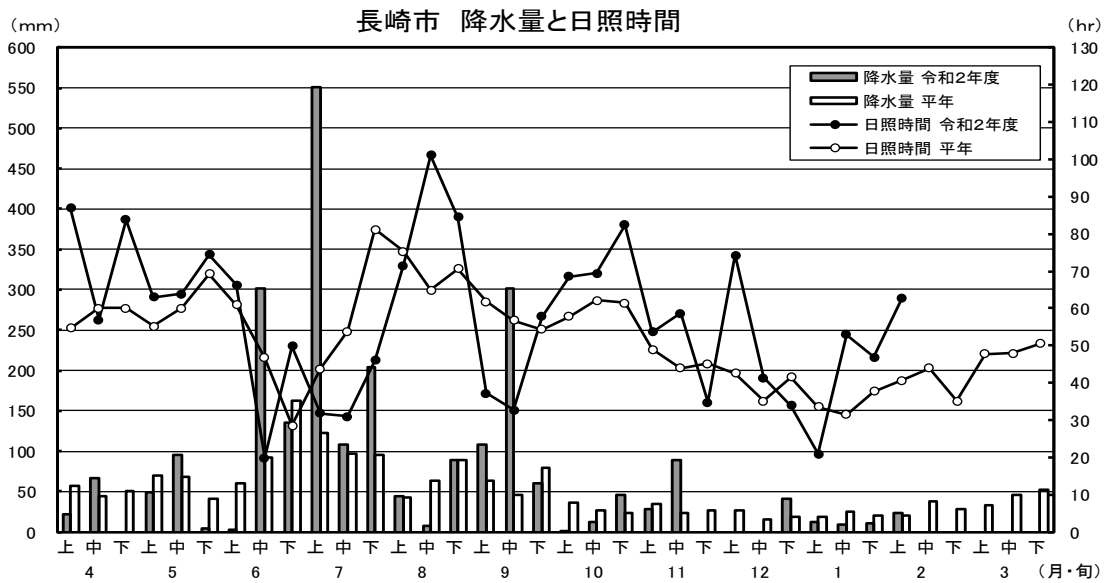
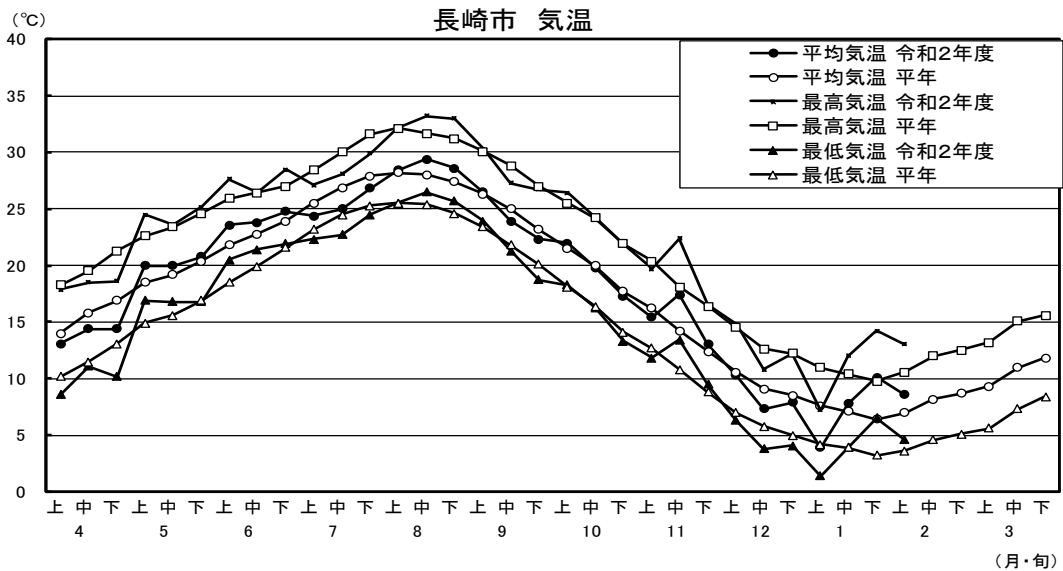
気象 (令和3年2月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和2年度の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

